

12. 市民スポーツとは 09. 07. 17

今だからこそ、みんなでもっとスポーツを！！

私はランニングが好きで本学学生にもスポーツを勧めておりますが、学生はすぐにダヤイとか面倒とかいいります。若者を対象にして教育的見地からも世の中に忘れられそうになっている本来の人間性をスポーツにより育むことができるよう、できることをしていきたいものです。筆をとりました。

スポーツの効用についていまさらいう訳ではないが、現代高度文明社会だからこそもっとスポーツをやらなければならない、といいたい。というのは、スポーツに親しむべき理由を単に健康増進の立場にだけ求めるのではなく、健全な市民生活を営むという本来の人間の育成においてもスポーツが重要な役割を持っていると考えているからである。我ら人間にとっては健全な身体に健全な精神が宿るという格言があるように、「体の健康は即、豊かな生活とつながるべきものである」にもかかわらず、豊かな生活には物質面の豊かさが強調されるあまり、精神的な豊かさがないがしろにされ気味といつても過言ではない。私は、そうしたところに、スポーツを介した人間性づくりが今だからこそ必要と考えている。

振り返ってみれば、我らは、本当に体を動かしているのであろうか、全力疾走したことがどれだけあるのであろうか。仕事でも全力疾走は(あまり)ないのではないか。ましてや納得づくの楽しみな疾走となると、どうであろうか。仕事一本でがんばっている方もおられるが、体を動かした心身ともに全力疾走であれば、楽しみも倍増し心身とも充実した生活が営めると考える。

また今日的課題としてもうひとつ。人と人との間に人間性に富んだ関係づくりにもスポーツの役割があると考えている。家庭崩壊とか地域崩壊などが危惧されている昨今、大量生産大量消費文化の中で、効率と欲望が追求されるあまり、愛とか信頼とかいった人間性がなかなか育っていないようにも思える。人間らしい行動とは、お互い苦労し、お互い達成感に浸り、次の向上を求め、お互い楽しむといったことがないのではないか。そういえば、幼児教育の時点から遡って考えてみても、子供の発達過程に応じてコミュニケーションを育みながらの遊びがなかなかみられなくなっている。これがひいては大人社会にも影を落としている。だからこそ、我ら大人としても、もっともっとスポーツをコミュニケーションとともに楽しみ、お互いに尊重しあい、いわば人間性をみがいかなくてはならないと思える。今だからこそ、教育の現場においても、地域においても、家庭においても、そうした点からも人間性を育みたいものである。

ここで、少しエピソードを。私自身、マラソン、山登り、テニス、スキーなどを楽しんでいる。多くの方も本當はもともと楽しみたいのである(私にはそう見える)。そういえばこんなことがあった。一つには、市民マラソン大会のとき、中学生が「何で苦しい目にあって走っているのか」といいながらも一生懸命走っていた。本能的に楽しんでいるようにみえた。二つには、沿道の方々が惜しみない声援を送っておられた。著名選手

ではなくただの市民ランナーに対して。また市民ランナーもしやちこばることなく、声援に後押しされて走るさまは、本当にホットな地域社会のありようを感じることができた。やはり、スポーツの力はすごい、と実感するしたいであった。